
男女共同参画社会づくりに関する 県民意識調査

《概要版》

令和3年1月



沖縄県 子ども生活福祉部

調査について

1 調査の目的

この調査は、沖縄県における男女共同参画社会の形成に関する県民の意識と実態について把握し、次期（第6次）沖縄県男女共同参画計画の策定及び今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の基礎資料とすることを目的とする。

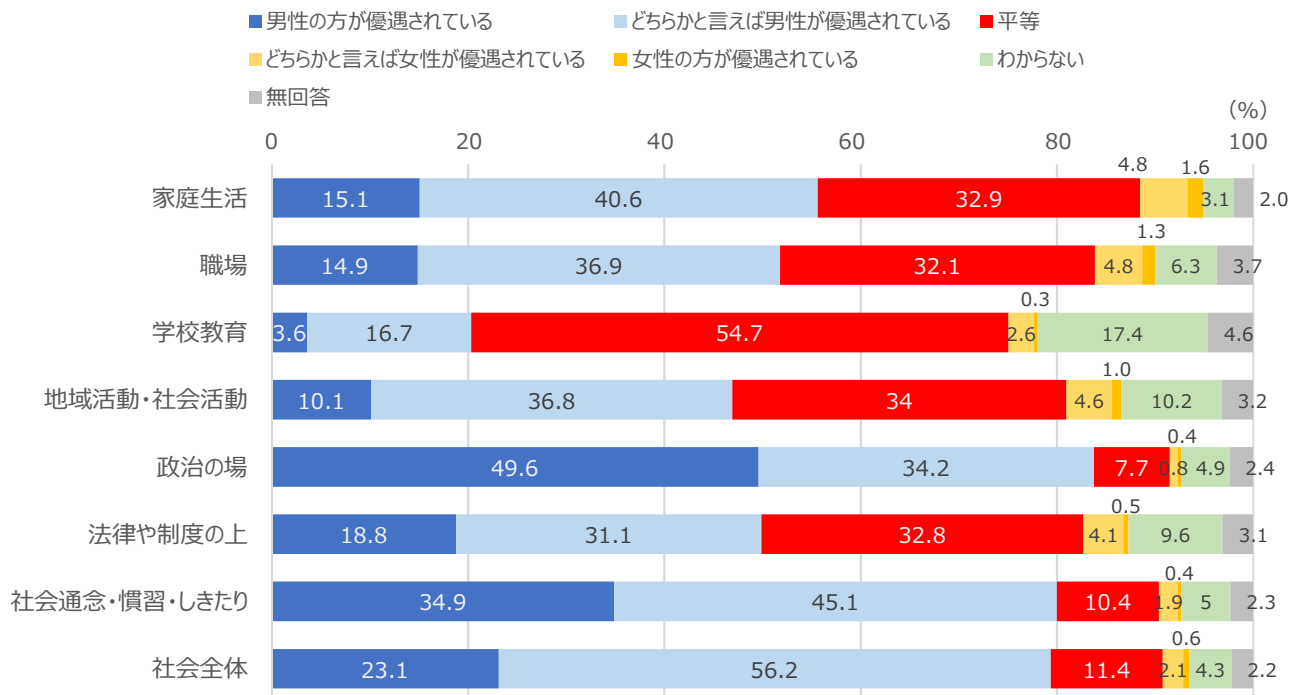
2 調査の内容

- (1) 男女の地位の平等感について
- (2) トートーメー（位牌）の継承について
- (3) 家庭生活での男女の役割分担について
- (4) 女性の就労について
- (5) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (6) 地域活動への参加意識について
- (7) 老後の生活について
- (8) 介護について
- (9) 配偶者からの暴力と対策について
- (10) セクシュアル・ハラスメントと対策について
- (11) 性の多様性について
- (12) 男女共同参画行政および推進について

男女平等について

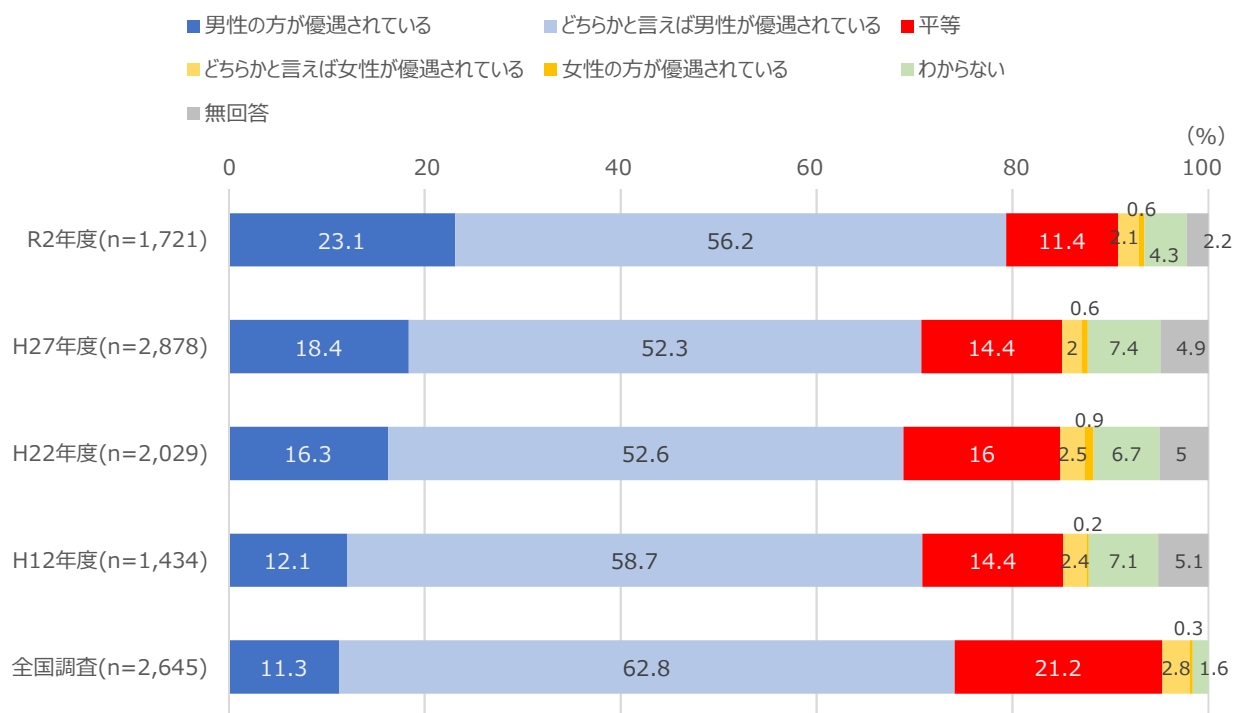
男女の地位の平等感

●男女の地位の平等感について「平等」感が高いのは「学校教育」の場。「社会全体」では約8割が「男性が優遇」されていると回答している。



男女の地位の平等感の推移

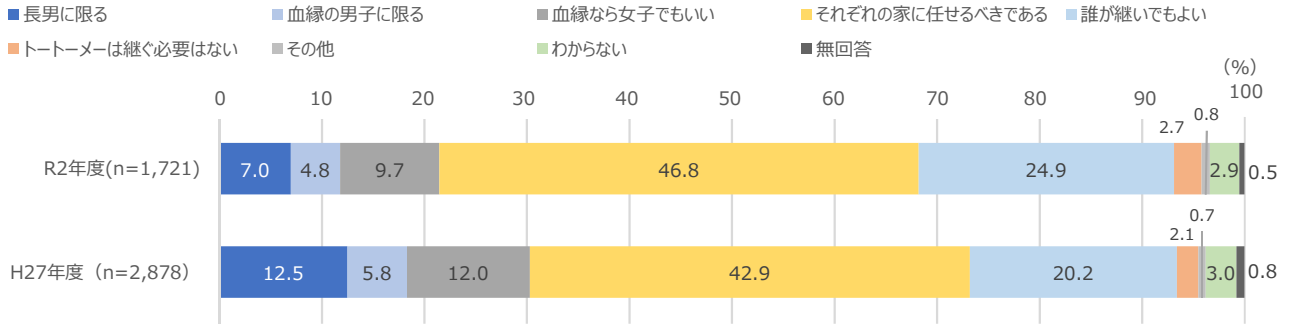
●「男性が優遇されている」という割合は増加傾向にある。



男女平等について

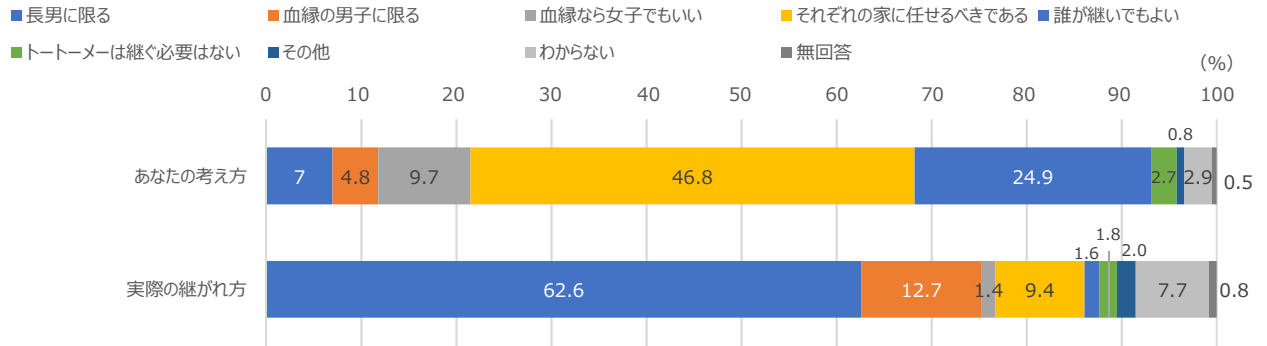
トートーメー（位牌）の継承についての考え方

●トートーメーの継承については「それぞれの家に任せるべきである」「誰が継いでもよい」が増加している。



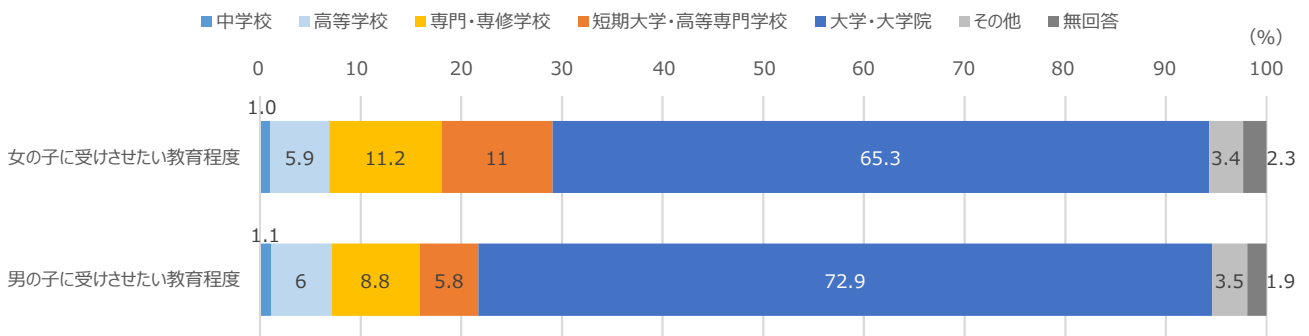
トートーメー（位牌）の実際の継承状況

●実際にトートーメーの継承については個人の考えでは「長男」は7%程度だが、実際では62.6%と過半数を占める。

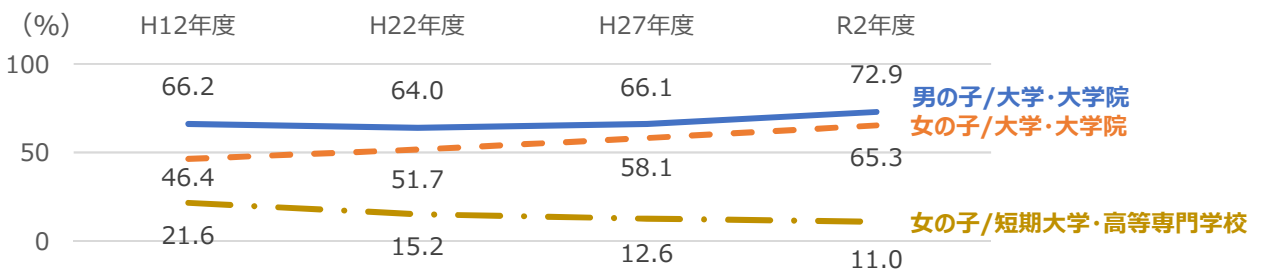


子どもに受けさせたい教育程度

●「子どもに受けさせたい教育程度」は「大学・大学院」までが「男の子」で72.9%、「女の子」で65.3%と差がある。



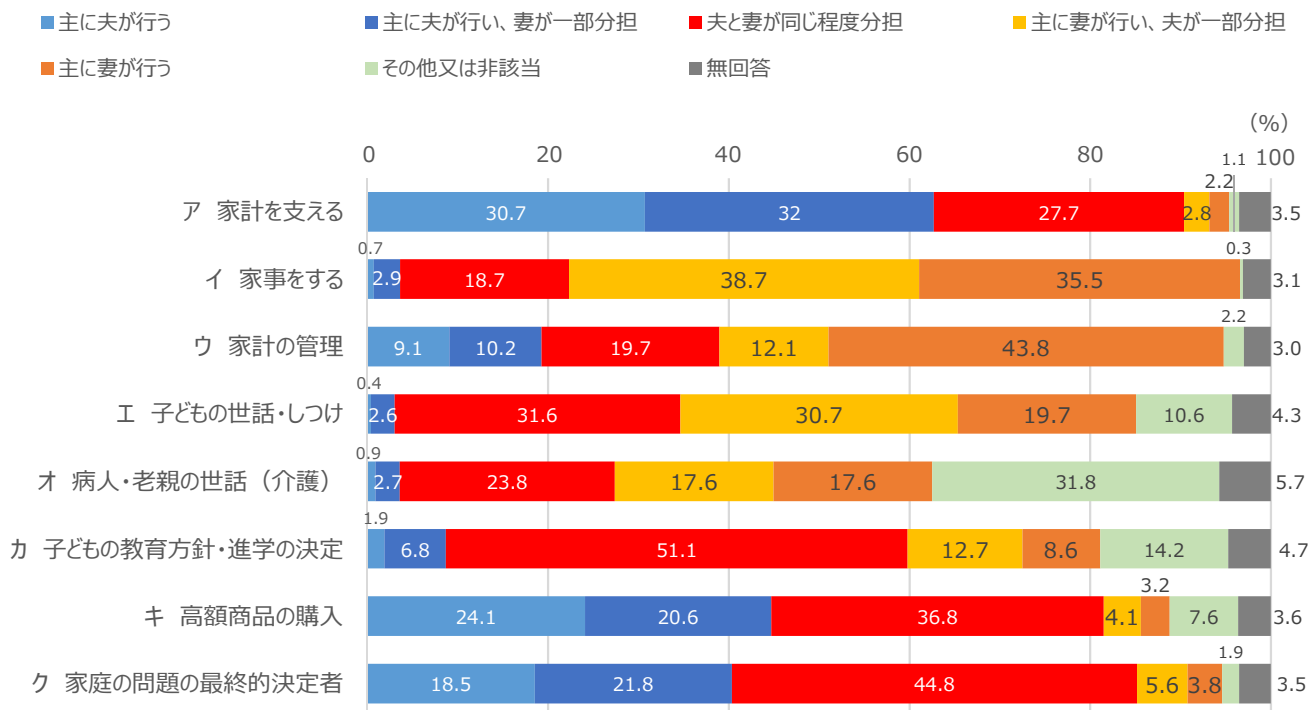
〈大学・大学院について（時系列比較）〉



家庭生活について

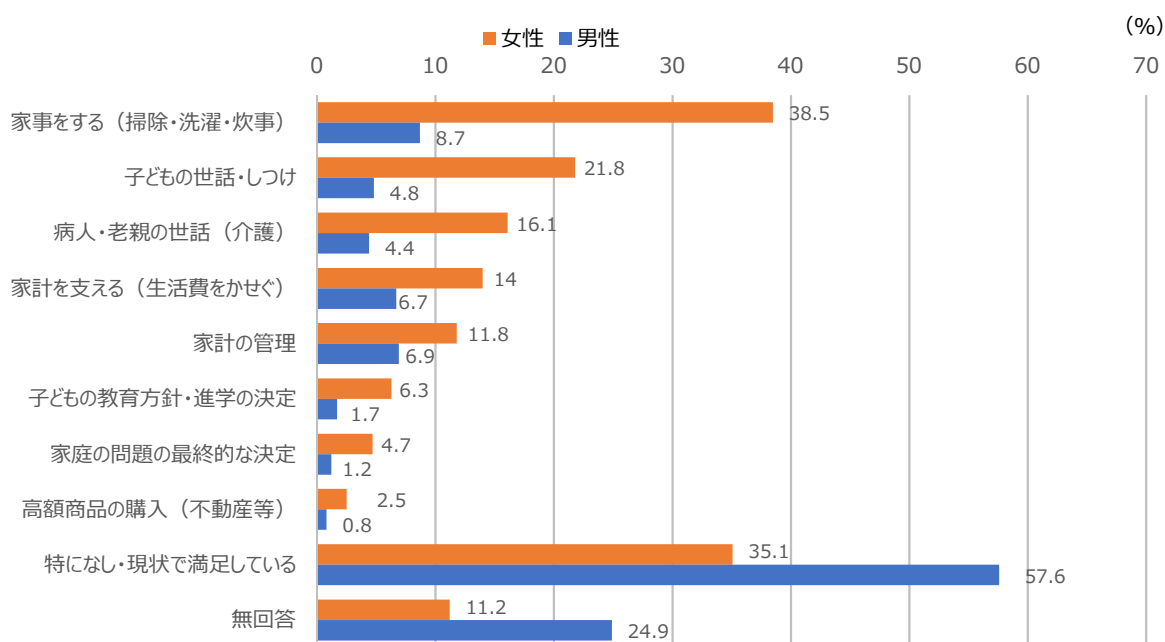
家庭内の役割分担について

● 夫と妻が同じ程度分担しているものとしては「子どもの教育方針・進学決定」が51.1%と最も高い。



家庭内で配偶者にもっとやってもらいたいこと

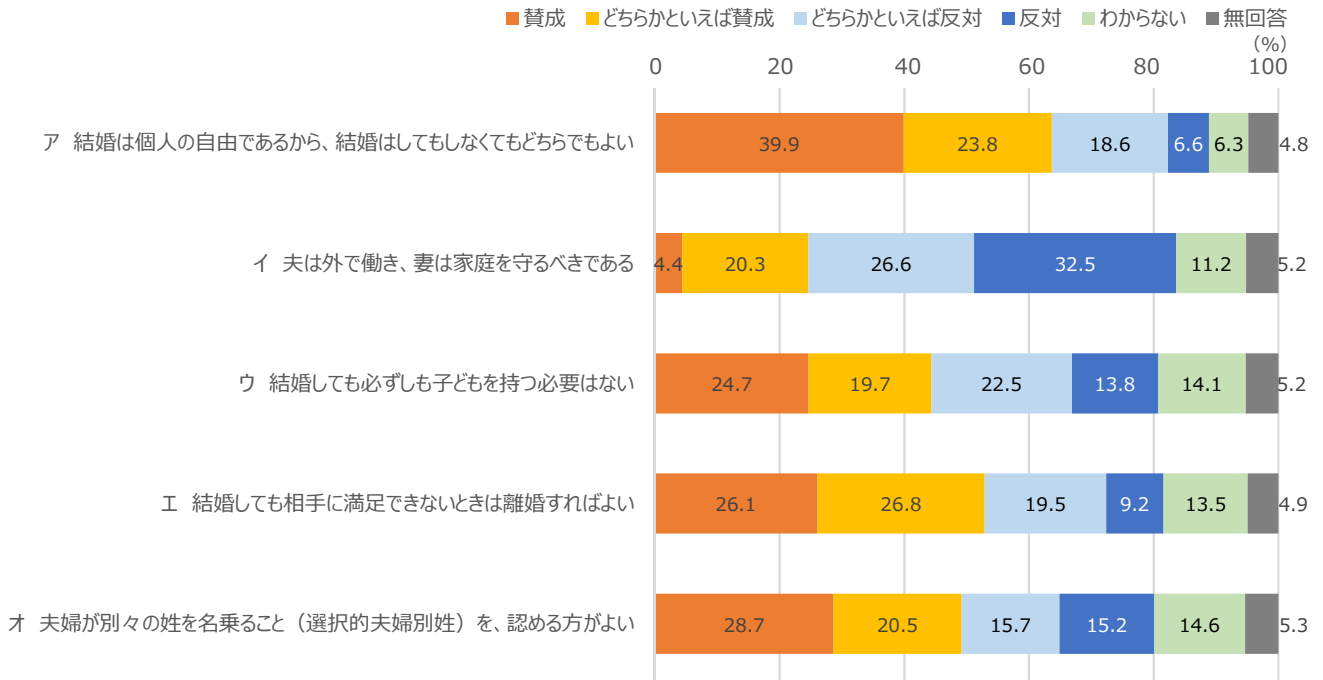
● 女性が配偶者にもっともやってもらいたいことは「家事をする（掃除・洗濯・炊事）」である。一方、男性は「特に無し、現状で満足している」が57.6%と半数を超える。



家庭生活について

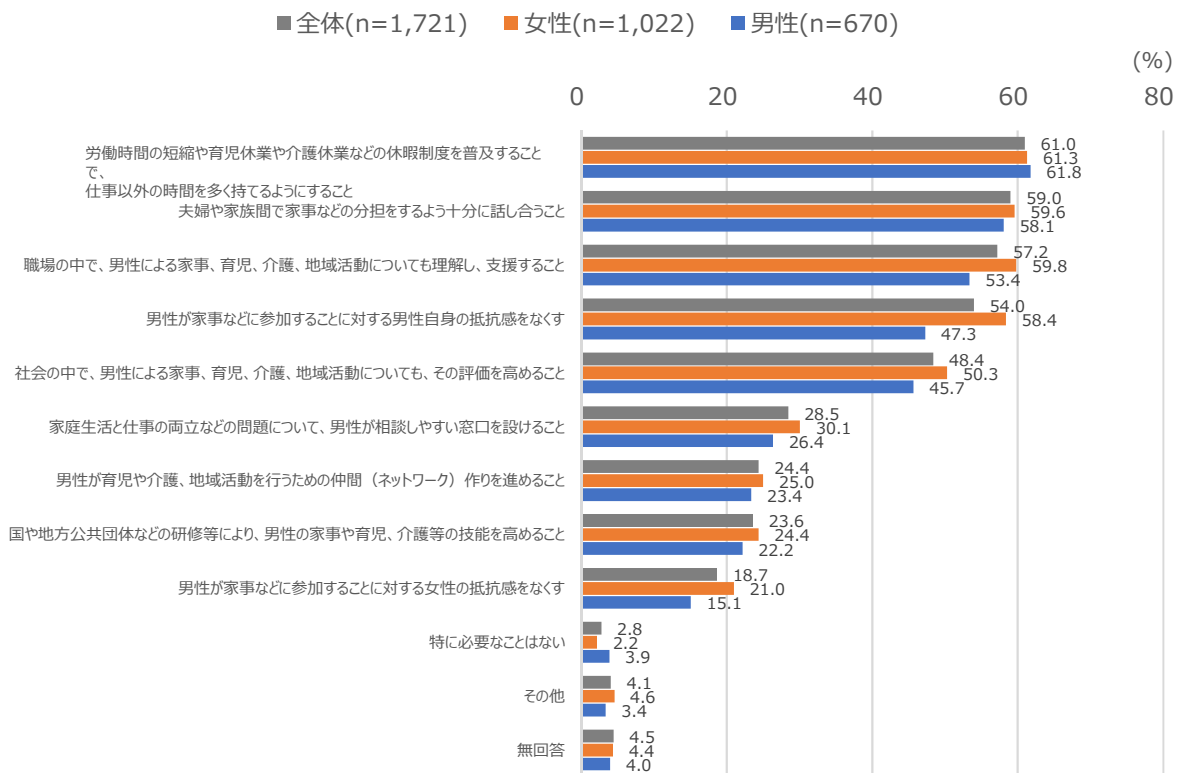
結婚や家庭生活の関する考え

●6割強が「結婚は個人の自由であるから、結婚はしてもしなくてもどちらでもよい」と考えている。また離婚についても半数以上が肯定している。



男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと

●男性が家事、育児、介護、地域活動に参加する為に必要なことは、男女とも「労働時間の短縮や育児休業や介護休業などの休暇制度を普及することで仕事以外の時間を多く持てるようにすること」が最も多い。

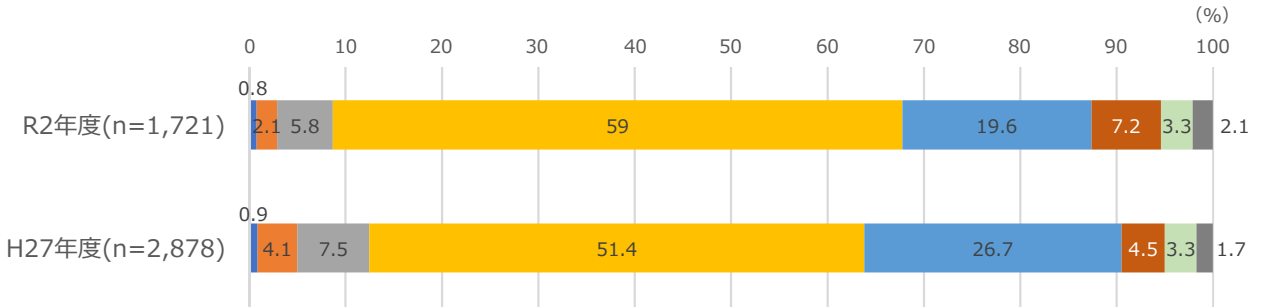


仕事について

女性の働き方について

● 前回調査に比べ、「結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい」が増加した。

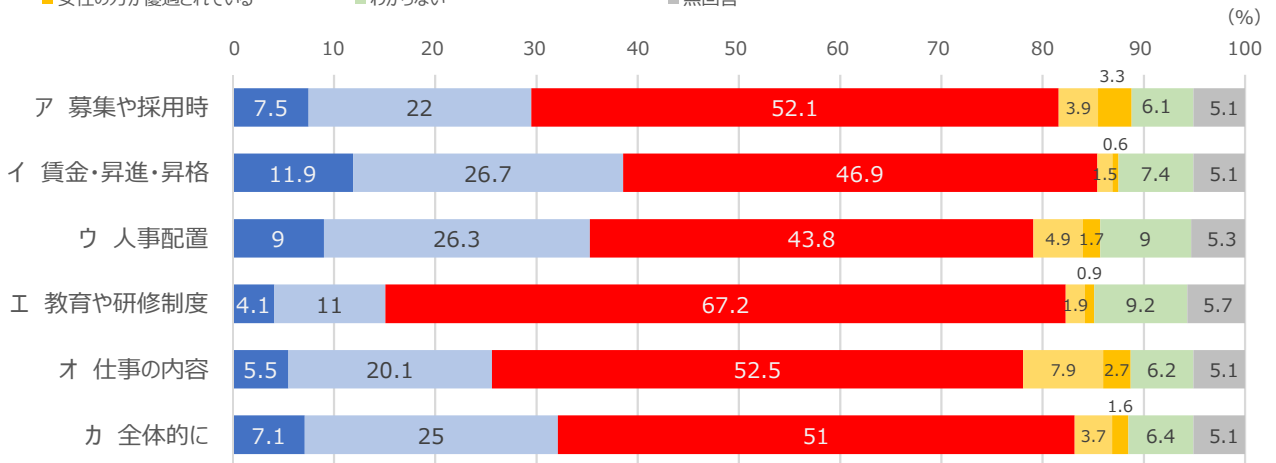
- 女性は仕事をもたない方がよい
- 結婚して子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 子どもが出来たら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- わからない
- 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- 結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい
- その他
- 無回答



職場における男女の待遇

● 職場における男女の優遇については概ね「平等」が多いが、「賃金・昇進・昇格」「人事配置」などは「男性が優遇されている」との回答が比較的多い。

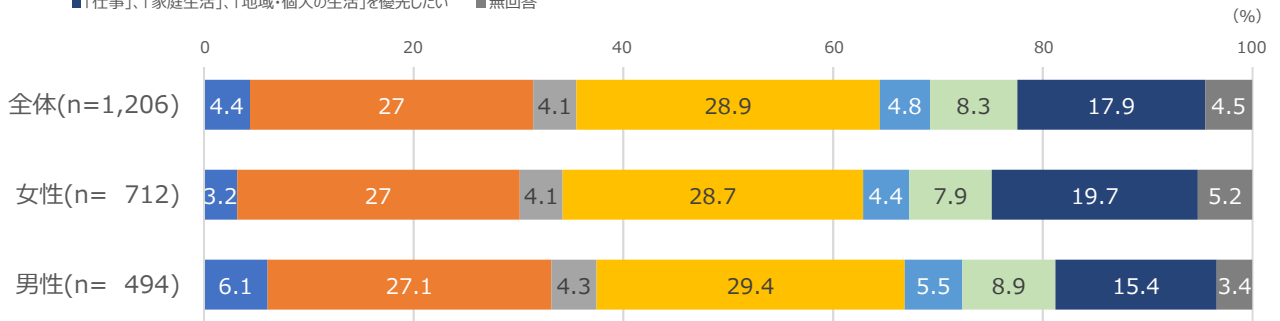
- 男性の方が優遇されている
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- 平等
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答



ワーク・ライフ・バランスについて (希望)

● 仕事と家庭生活の優先度については「仕事と家庭生活を共に優先」が3割弱、「家庭生活を優先したい」もほぼ同率の割合である。

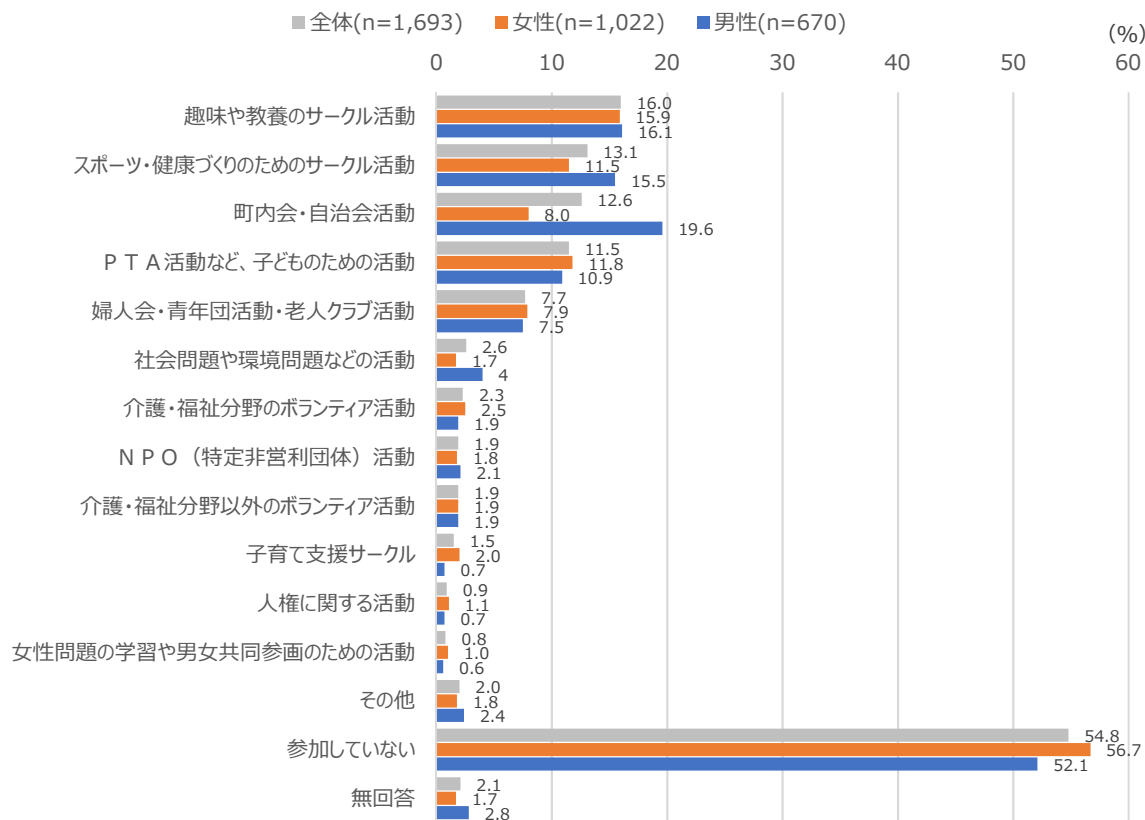
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」を優先したい
- 無回答



地域活動について

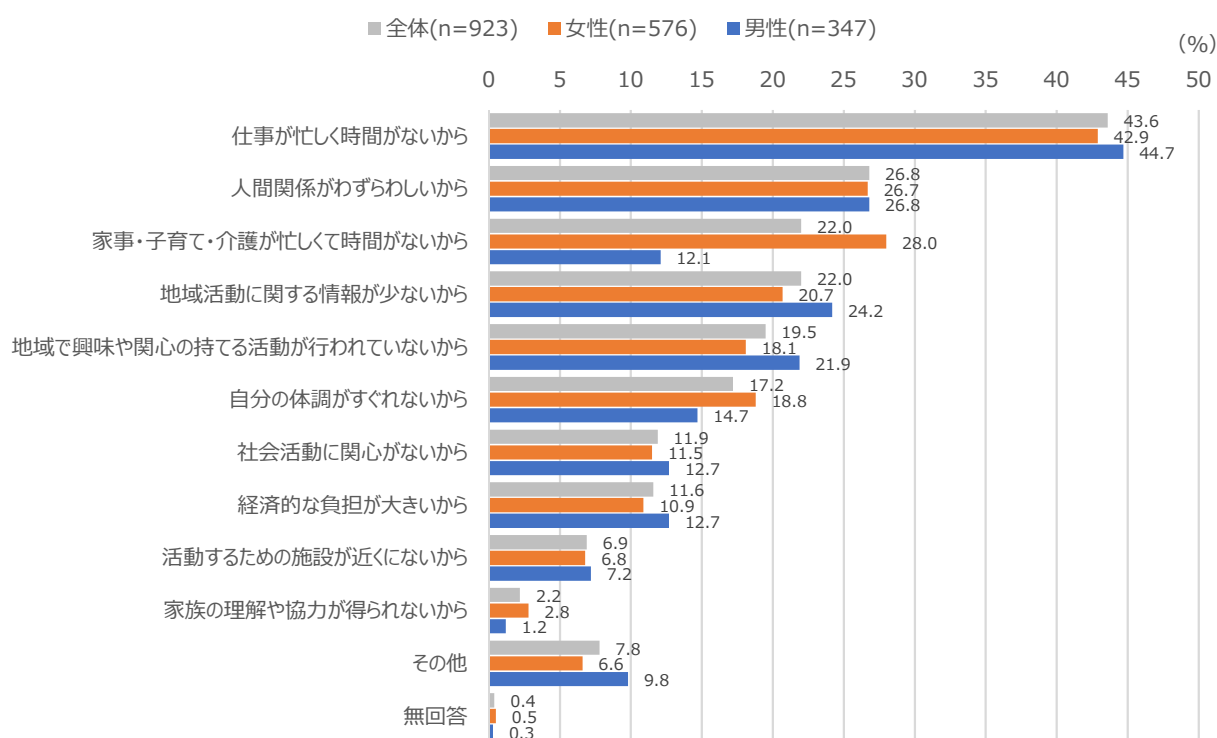
地域活動への参加状況

● 地域活動への参加状況では、5割強が「参加していない」と回答している。最も多い活動は「趣味や教養のサークル活動」、次いで「スポーツ・健康づくりのためのサークル活動」である。



地域活動へ参加しない理由

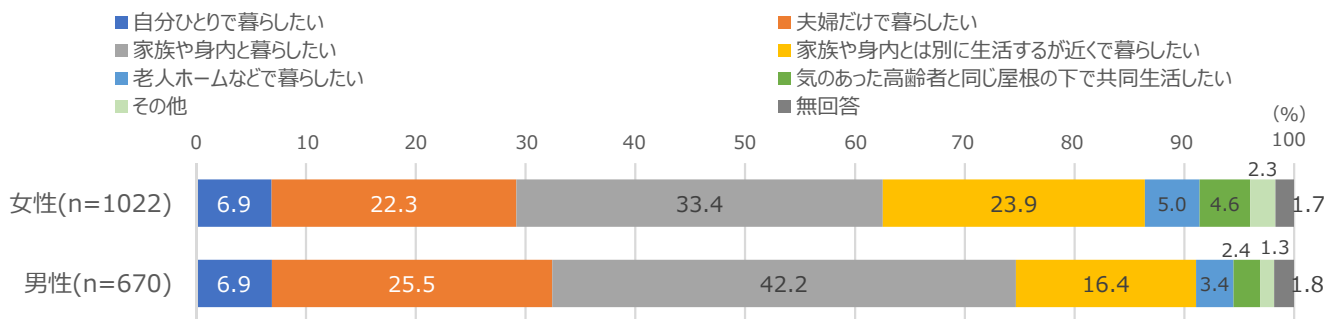
● 地域活動へ参加していない理由は「仕事が忙しく時間がないから」が最も多い。



老後の生活について

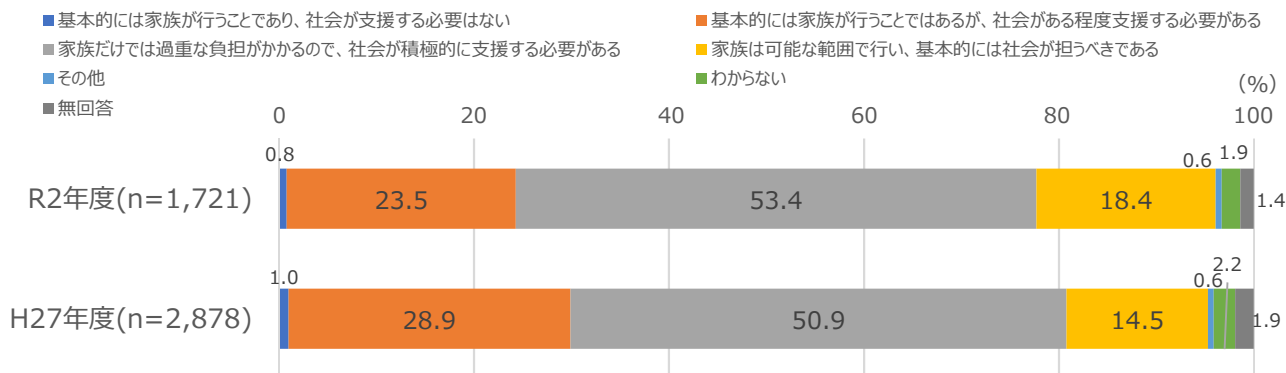
老後の暮らし方

● 老後は「家族や身内と暮らしたい」と考える男性が42.2%に対し女性は33.4%である。また「家族や身内とは別に生活するが近くで暮らしたい」は男性が16.4%に対し、女性は23.9%と男女で意識差が見られる。



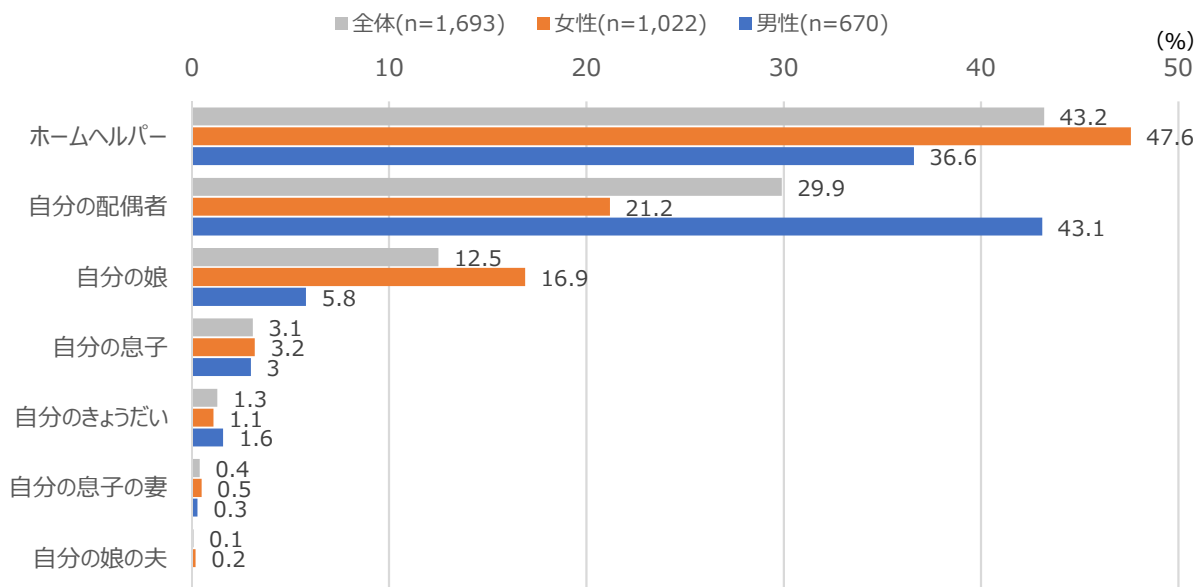
高齢者への介護支援

● 高齢者への介護支援については「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある」が最も多く、また前回調査よりも増加している。



自身が介護をしてほしい人

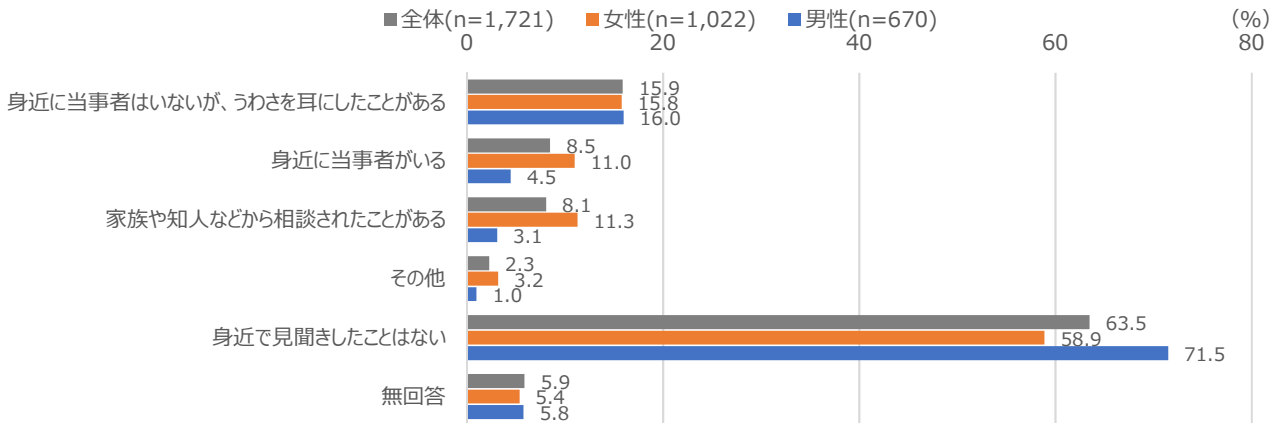
● 自分が介護が必要になった場合、誰に介護して欲しいか聞くと、「ホームヘルパー」が最も多い。女性では特にその傾向が高い。



配偶者からの暴力について

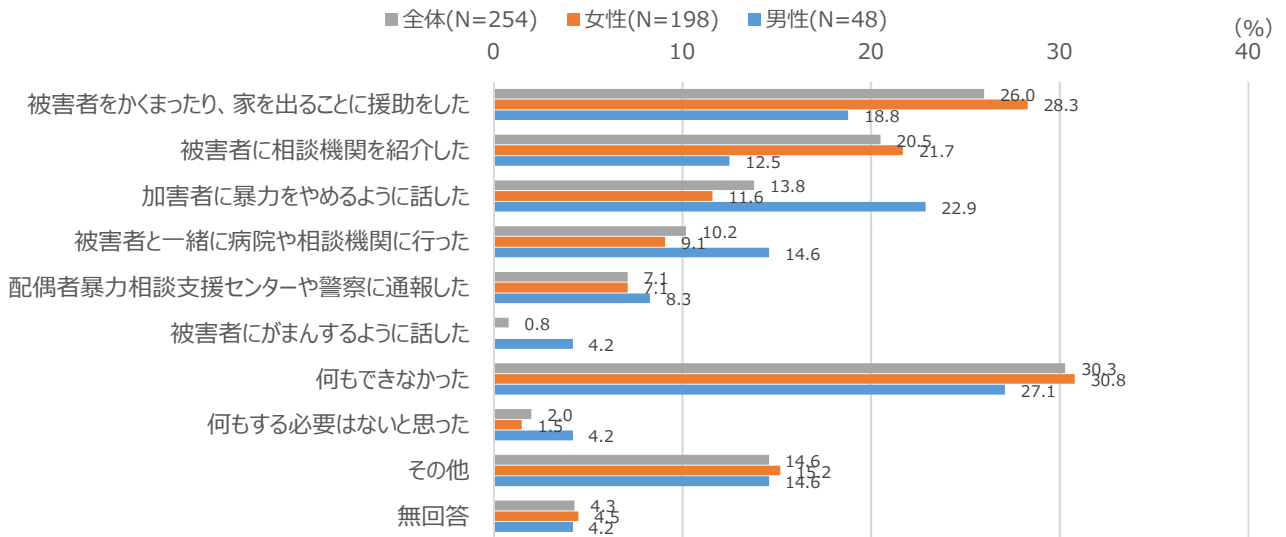
身近でのDVの見聞きについて

● 身近でDVについて見聞きたことがある割合は4割弱を占める。



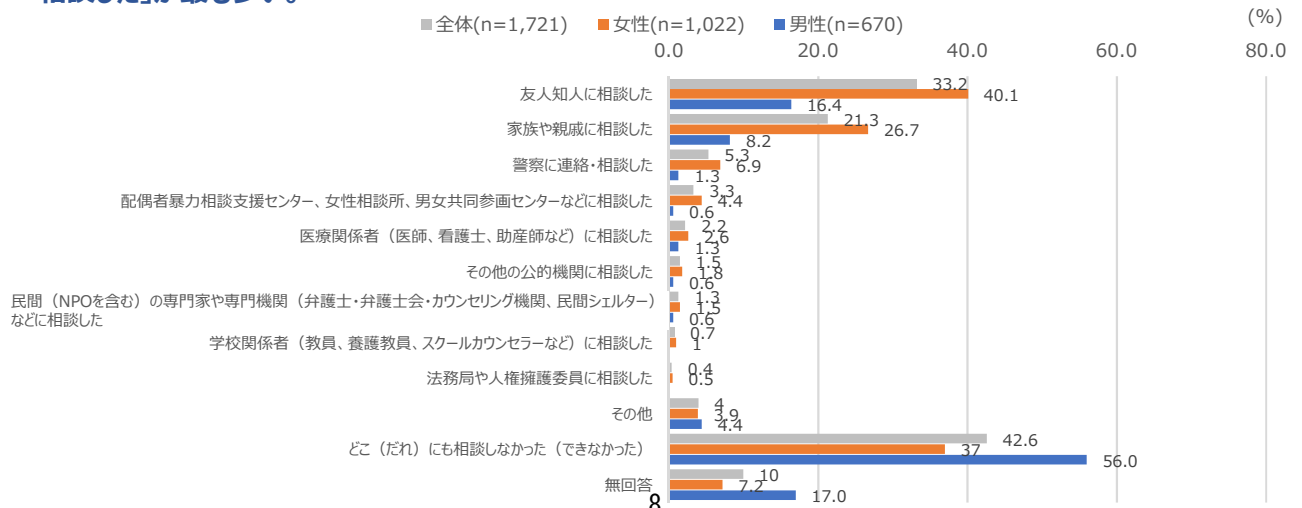
身近で起きたDVへの対応

● DVについて知った時の対応を聞くと、3割が「何もできなかった」と回答している。女性は「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」、男性は「加害者に暴力をやめるように話した」という対応が多い。



自分自身が受けたDV被害への対応

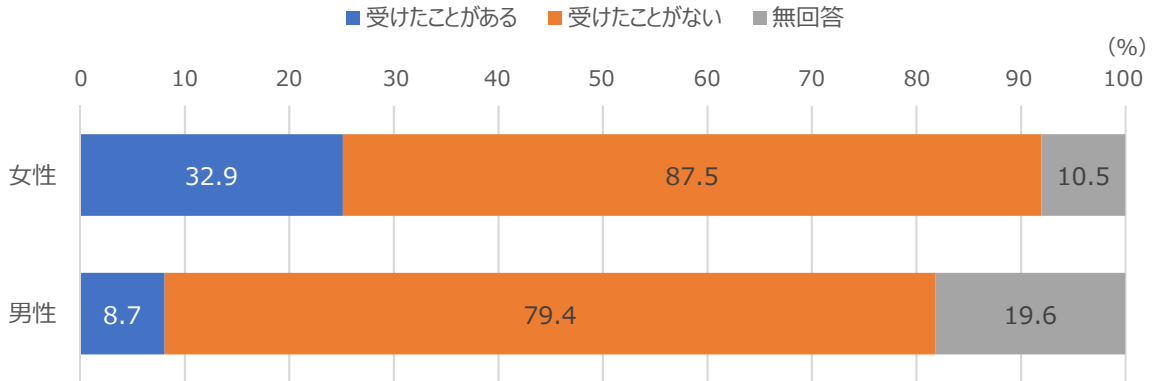
● 自分自身がDV被害を受けた場合、男性は「相談しなかった（できなかった）」が最も多く、女性は「友人知人に相談した」が最も多い。



セクシュアル・ハラスメントについて

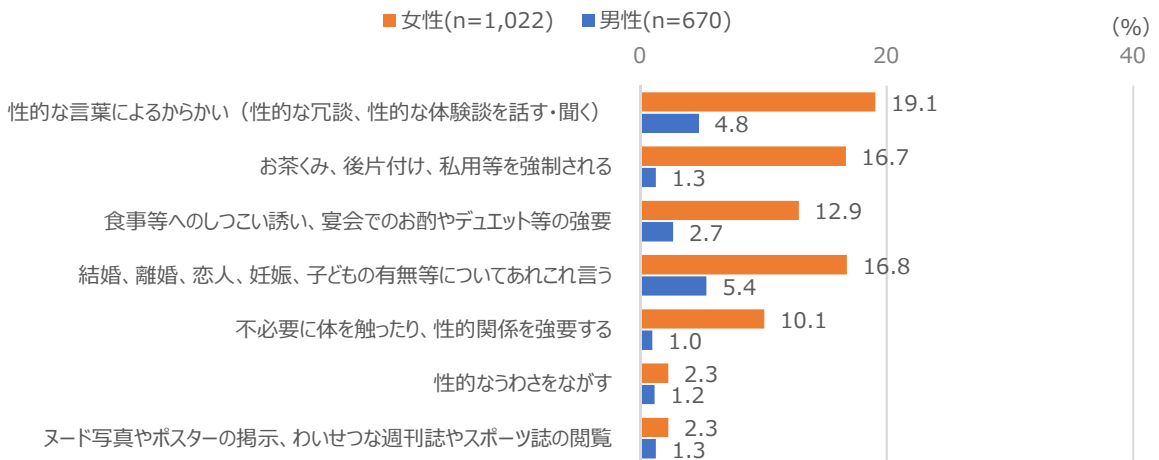
セクシュアル・ハラスメント等の被害の経験

● 何らかのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、ジェンダー・ハラスメントを受けた経験は女性で32.9%、男性でも8.7%が受けたことがあると回答している。



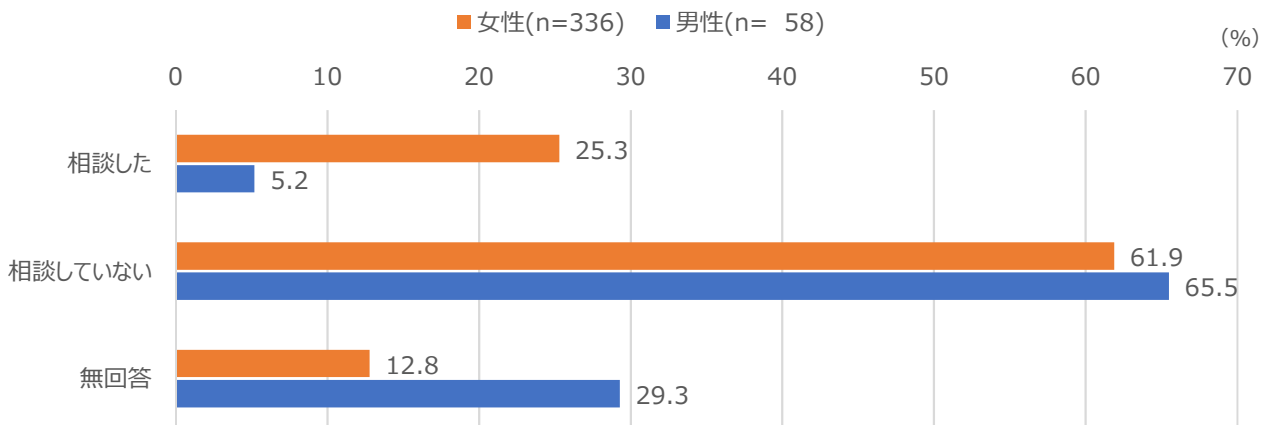
セクハラ等被害の具体的内容

● 女性の約2割が「性的なからかい」を受けた経験がある。



セクハラ等被害を受けた際に相談したか

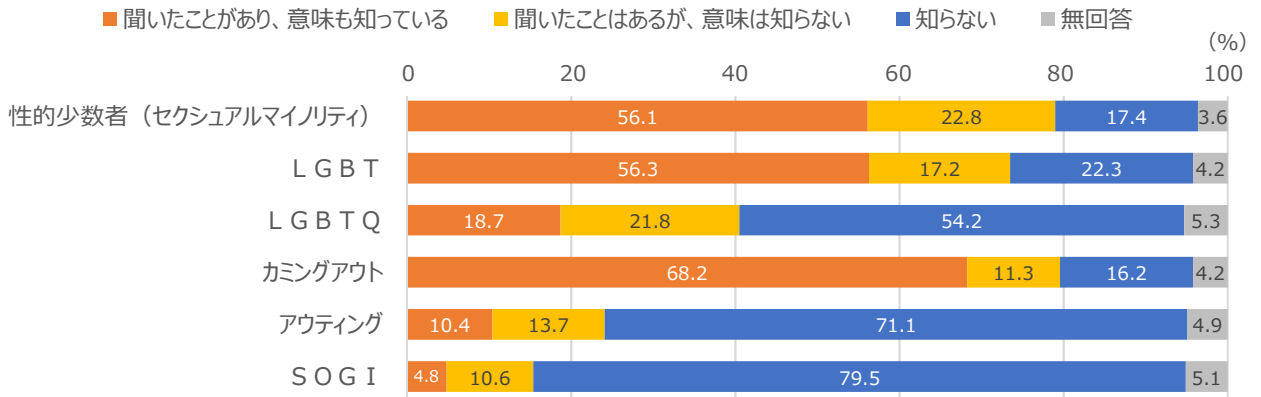
● 女性がセクハラ等被害を受けた際に「相談した」は25.3%、「相談していない」は61.9%である。



性の多様性について

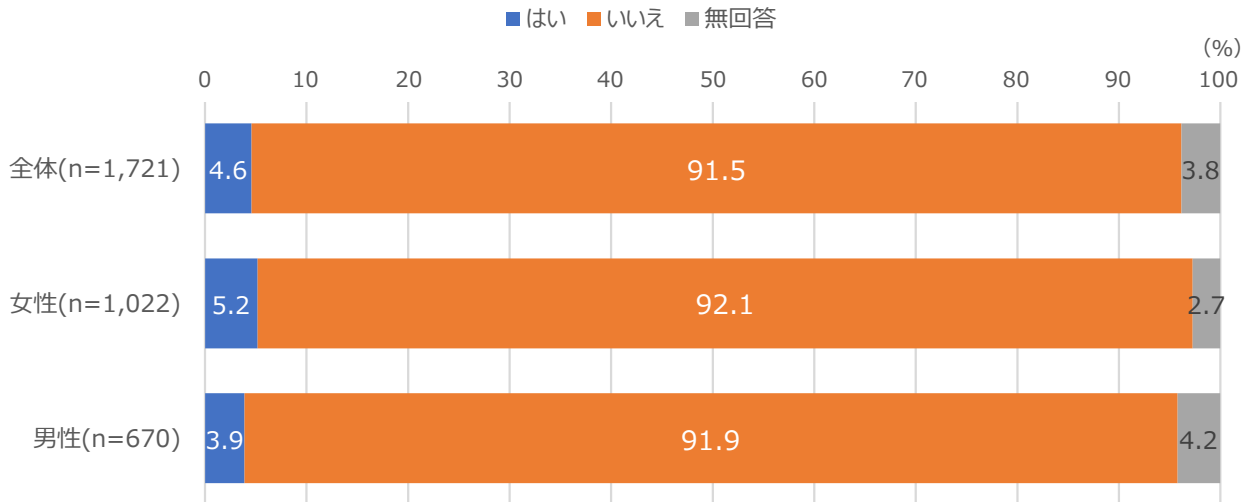
性の多様性についての認知

●「性的少数者」「LGBT」「カミングアウト」については半数以上が内容まで理解している。※用語の説明は14頁。



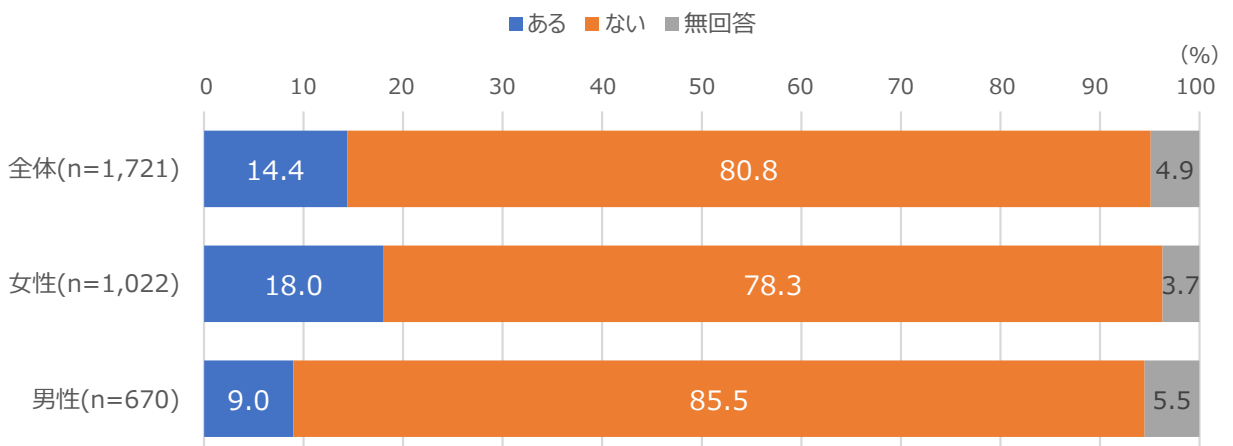
自分の体の性・心の性、または性的指向に悩んだことがあるか

●「悩んだことがある」と回答した方は、女性で5.2%、男性で3.9%である。



性的少数者であることの打ち明け

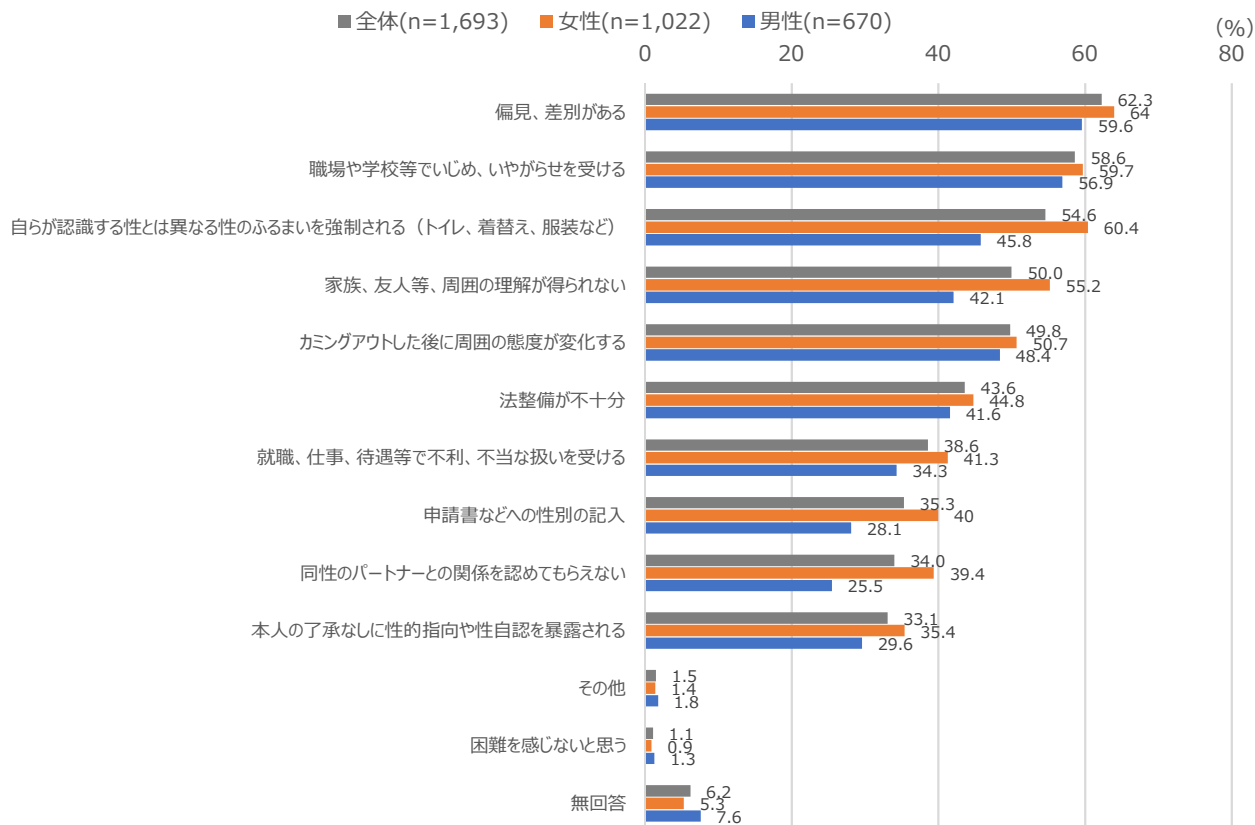
●性的少数者であることを誰かに打ち明けられた経験は、女性で18.0%、男性では9.0%である。



性の多様性について

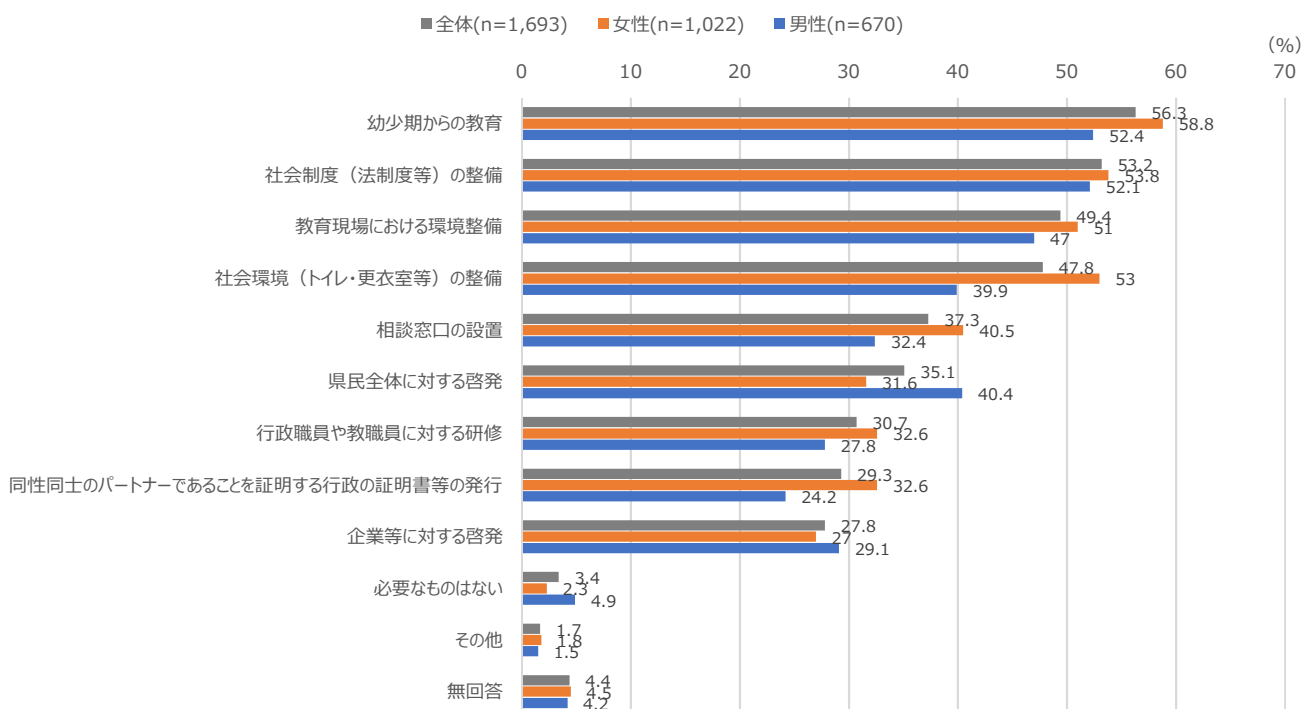
LGBTであることが困難に感じる時

● LGBTの方が困難に感じるとしたらどんな場合か、という質問では「偏見、差別がある」が最も多く62.3%、次いで「職場や学校等でのいじめ、いやがらせを受ける」が58.6%である。



偏見や差別などをなくすための取組み

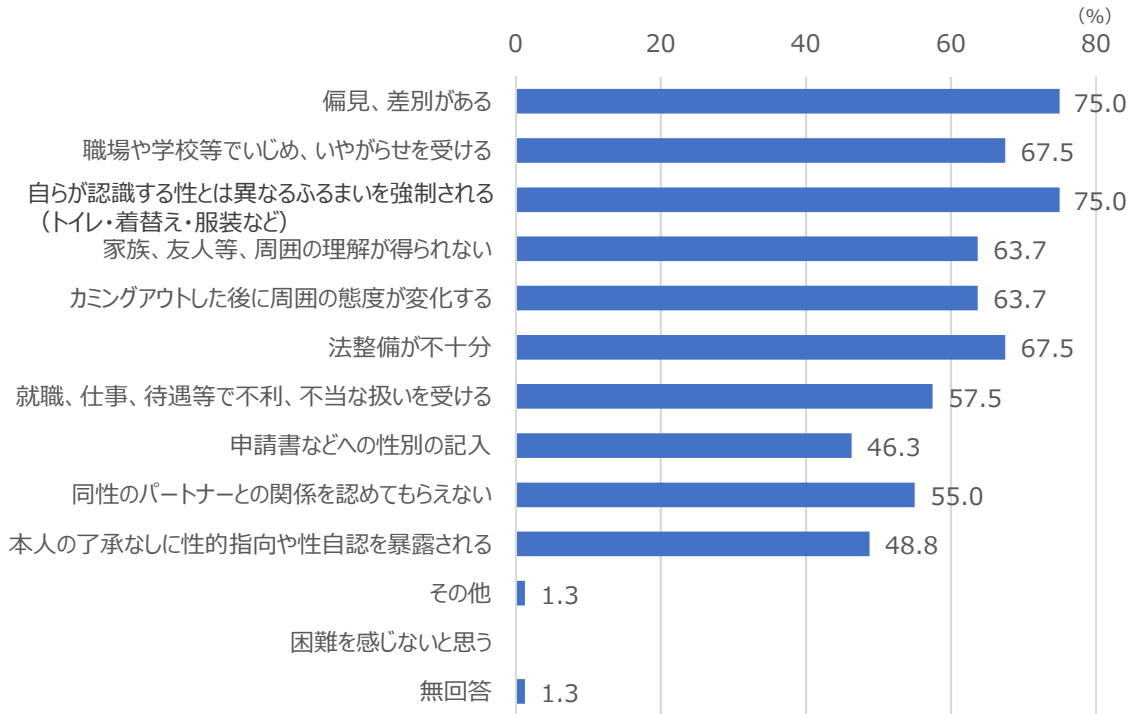
● 性的少数者の方への偏見、差別をなくすには、「幼少期からの教育」が最も多い。



性の多様性について

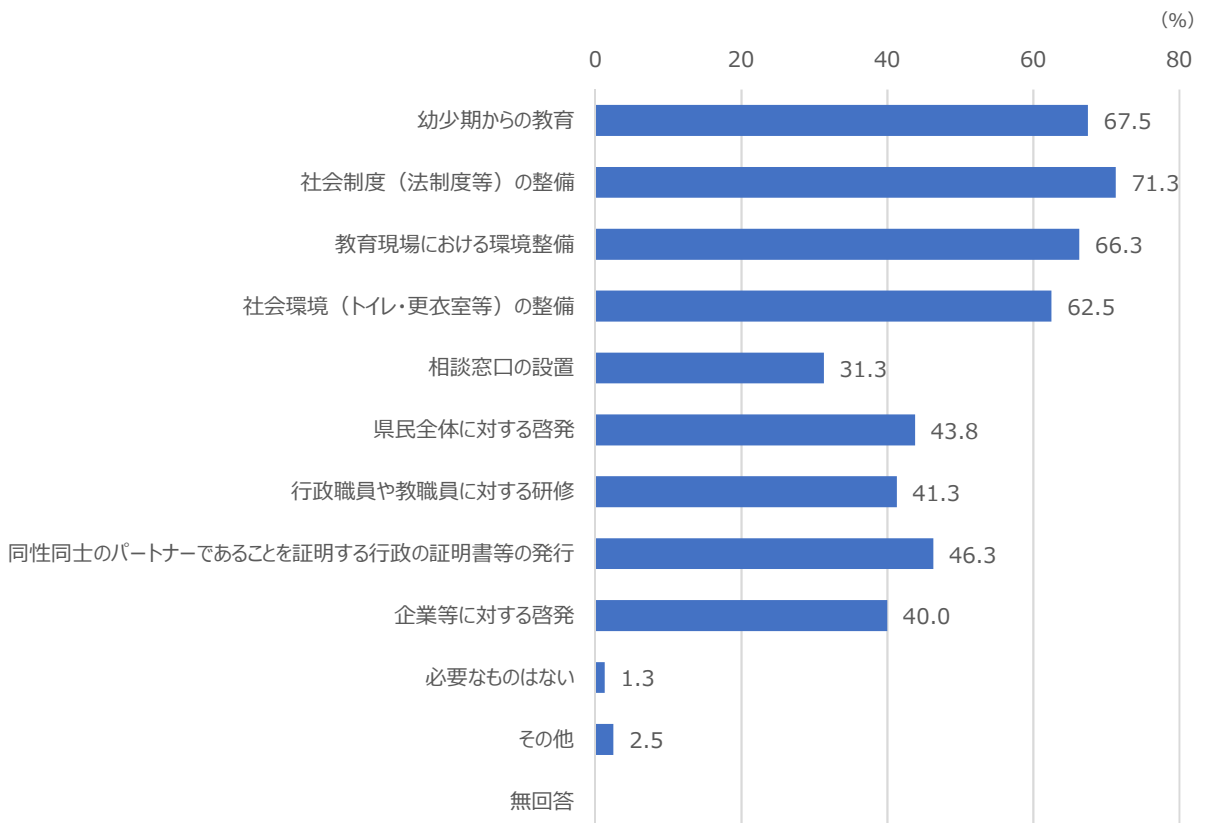
自分の体の性・心の性、または性的指向に悩んだことがあると回答した方の場合（LGBTであることが困難に感じるとき）

- 「偏見・差別がある」と「自らが認識する性とは異なるふるまいを強制される」の割合が高い。特に「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強制される」は全体より20ポイント以上高い回答率となっている。



自分の体の性・心の性、または性的指向に悩んだことがあると回答した方の場合（偏見や差別をなくすための取組み）

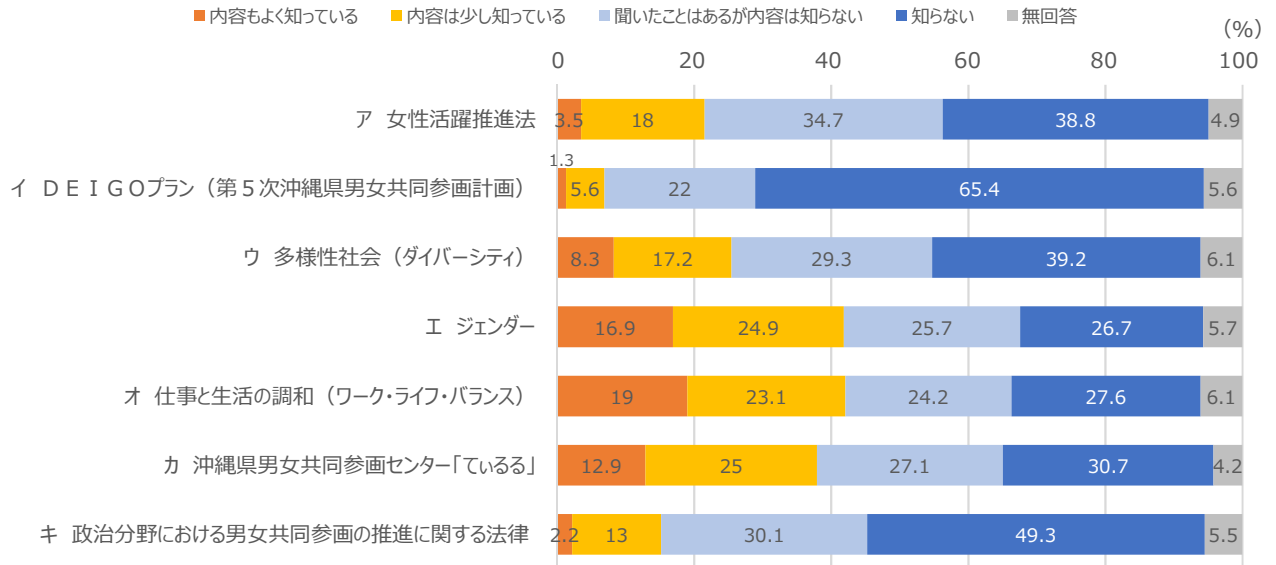
- 「社会制度（法制度等）の整備」、「幼少期からの教育」が高い割合になっている。



男女共同参画行政について

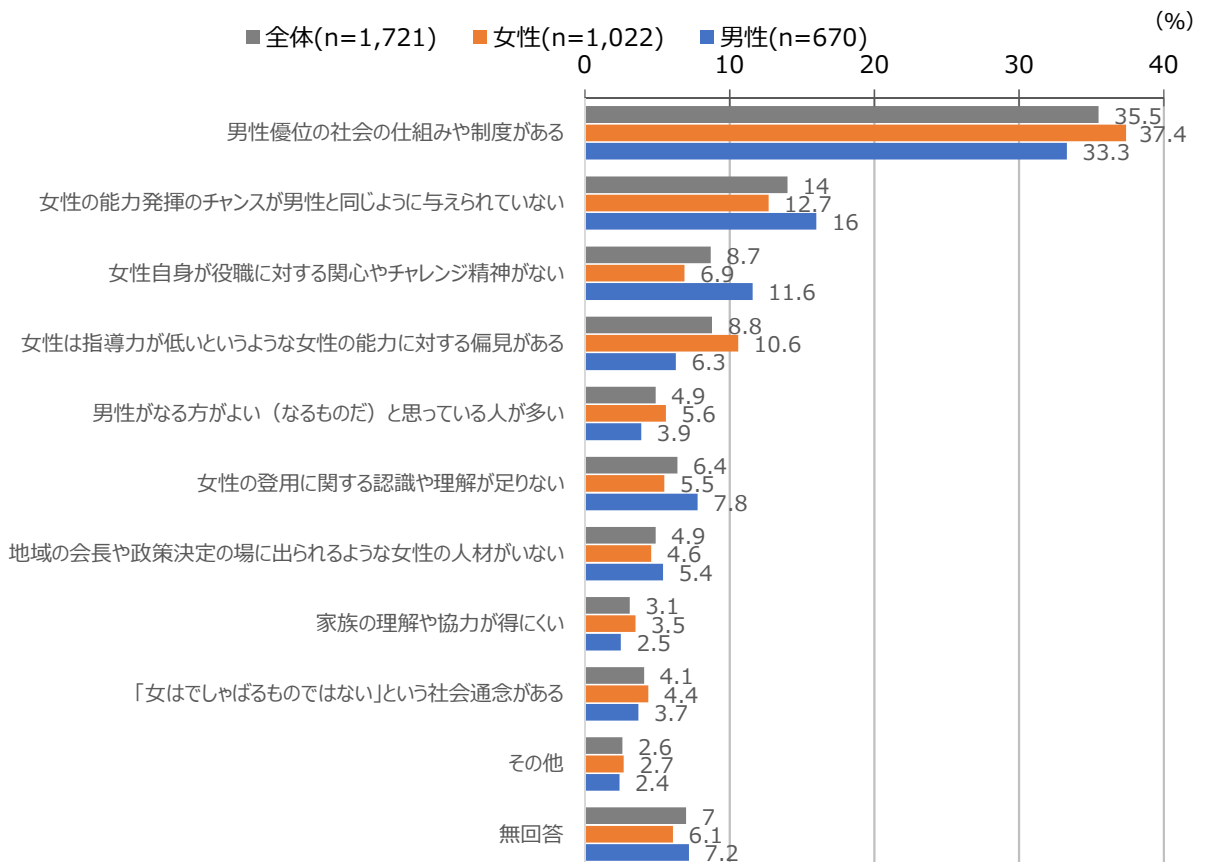
男女共同参画に関する用語の認知

● 男女共同参画に関する言葉について認知度が高いのは「ワーク・ライフ・バランス」「ジェンダー」である。



自治体、議員、企業の管理職への女性参画が少ない理由

● 女性の社会参画 (自治体の首長、議員、企業の管理職など) に女性が少ない理由としては、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が突出して多い。

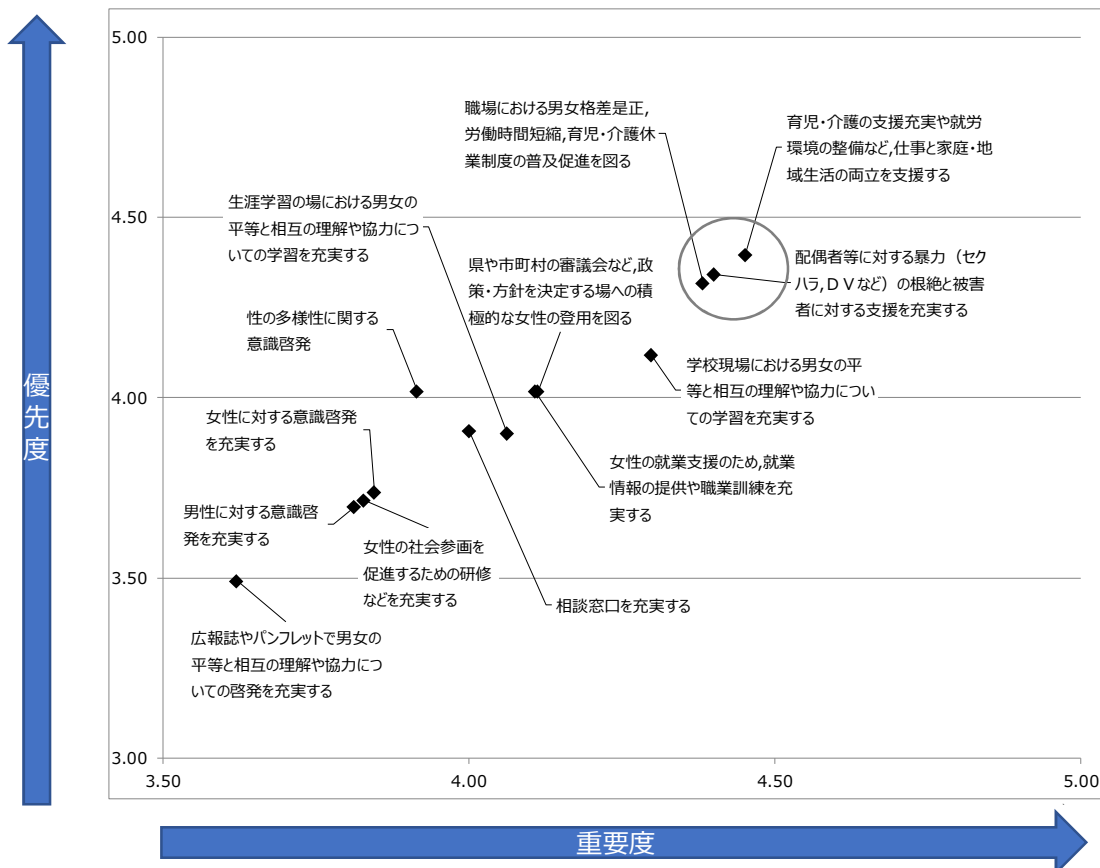


男女共同参画行政について

男女共同参画社会実現に向けた施策（重要度、優先度）

優先度かつ重要度が高い事項

- ① 「育児・介護の支援充実や就労環境の整備など、仕事と家庭・地域生活の両立を支援する」
- ② 「配偶者等に対する暴力（セクハラ、DVなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する」
- ③ 「職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る」



※男女共同参画社会実現に向けての13の項目に対して、「優先度」と「重要度」を5段階で回答してもらった結果のスコアで散布図を作成。

用語の説明

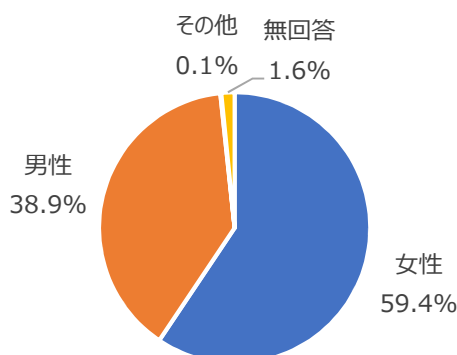
【セクシュアルマイノリティ】	同性が好きな人や、割り当てられた性別に違和感を覚える人（性同一性障害を含む）などの人々のことをいいます。「性的マイノリティ」ともいいます。
【LGBT】	以下の頭文字 L（レズビアン）：女性の同性愛者 G（ゲイ）：男性の同性愛者 B（バイセクシュアル）：両性愛者 T（トランスジェンダー）：割り当てられた性別に違和感を覚える人
【LGBTQ】	LGBTにあてはまらない人も含めた全ての性的少数者を表す言葉
【カミングアウト】	自分が性的マイノリティであることを打ち明けること
【アウトティング】	本人の同意なしにその人のセクシュアリティを勝手に公表すること
【SOGI（ソジ）】	性的指向（好きになる相手の性）と性自認（こころの性）を意味する言葉で、全ての人が持っているものです。

調査の概要

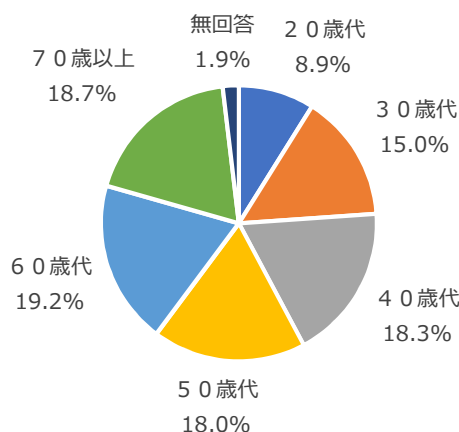
調査概要

調査対象	沖縄県各市町村から無作為に抽出した満20歳以上の男女
抽出方法	県内各市町村の住民基本台帳から抽出
調査方法	郵送配布/郵送回収及びWEBアンケート回収
調査機関	令和2年9月7日～9月28日
有効回収(率)	1,721件(22.9%)

回答者の基本属性



カテゴリ	件数	(全体)%
女性	1,022	59.4
男性	670	38.9
その他	1	0.1
無回答	28	1.6
合計	1,721	100



カテゴリ	件数	(全体)%
20歳代	153	8.9
30歳代	259	15
40歳代	315	18.3
50歳代	310	18
60歳代	331	19.2
70歳以上	321	18.7
無回答	32	1.9
合計	1,721	100

編集・発行

沖縄県子ども生活福祉部 女性力・平和推進課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
電話番号：098-866-2500 FAX番号：098-866-2589
URL：<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/heiwadanjo/index.html>